

# 僕らは特別



とうごう じゅん

広い宇宙のある星に、髪の毛を紫色に染めた子どもたちのグループがありました。  
グループには、特別な儀式をしないと入れません。



髪の毛を紫に染めて、水晶に書いてあることを信じると誓います。

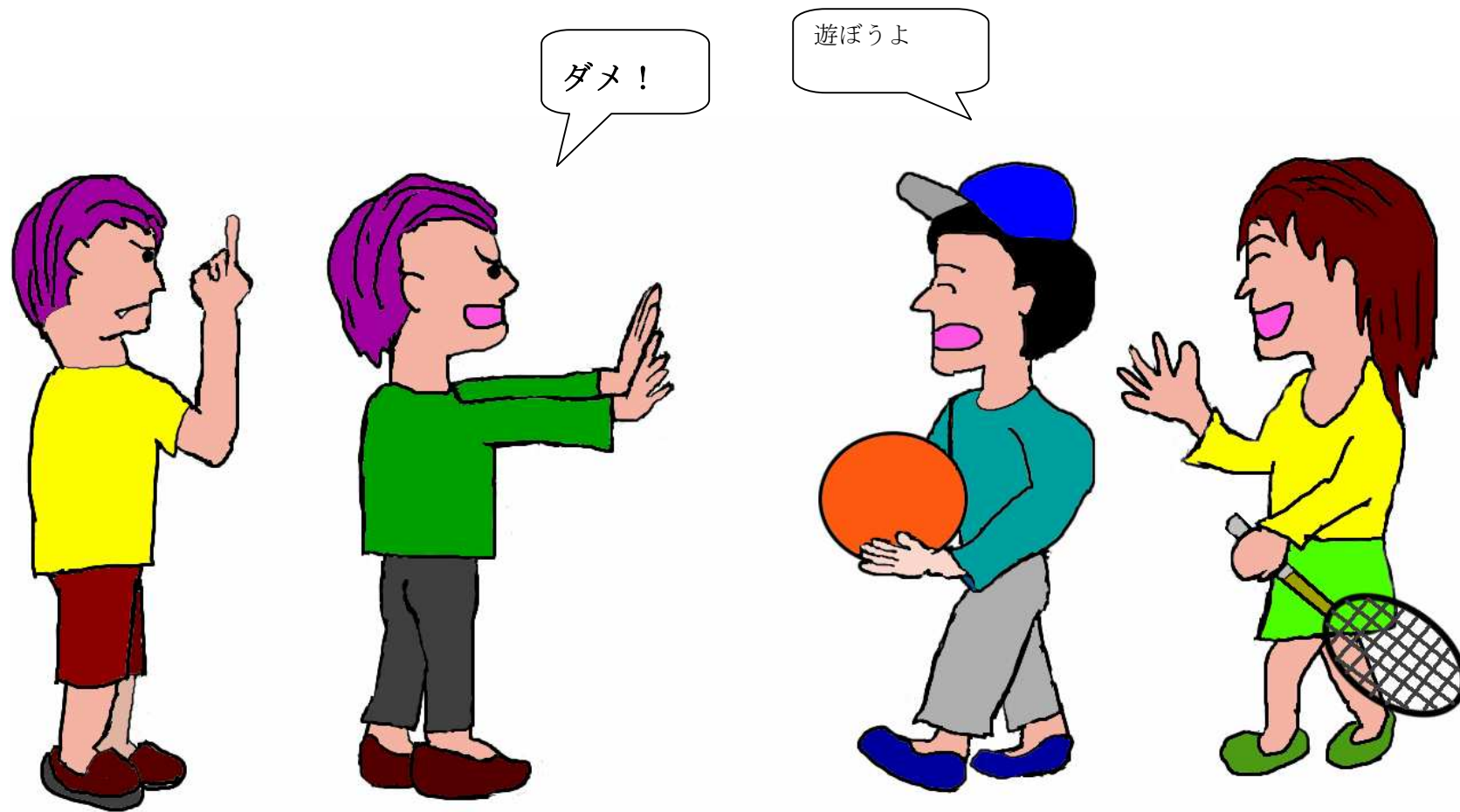
水晶には、「紫は選ばれし者。他の人は全て敵。」と書いてありました。



グループの中で、彼らはとっても仲良しです。



でも、グループ以外の子と仲良くすることはありません。



他の子はみな敵だと、水晶に書いてあったからです。

他の子どもたちは、敵だと思われて、面白くありません。次第に、紫の子どもたちを嫌うようになりました。



紫の子どもたちが苛められても、誰も味方なんかしません。

ちきしょう！ 水晶に書いてあった通りだ！  
紫以外は、皆、敵だ



こうして、紫の子どもたちは他の子どもたちに、しょっちゅう苛められていました。

ある日のことです。紫の子どもたちは、町の公園を独り占めにすることにしました。自分たちだけの公園があれば、苛められずにすむと思ったのです。



紫の子どもたちは力を合わせて、他の子どもたちを追い出しました。



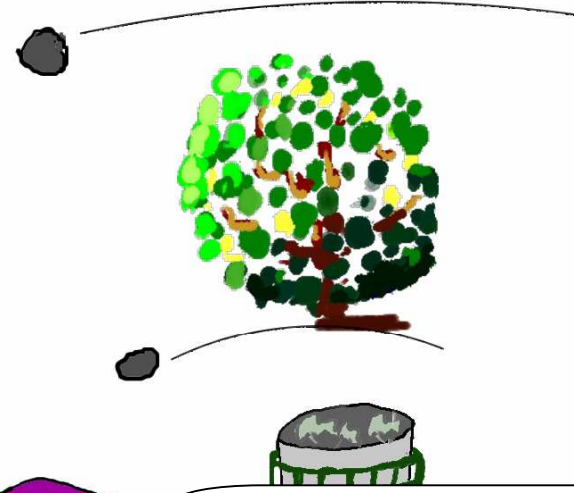
公園を追い出された子供たちは、怒って仲間を集めました。そして、みんなで公園の中に石を投げ込んだのです。



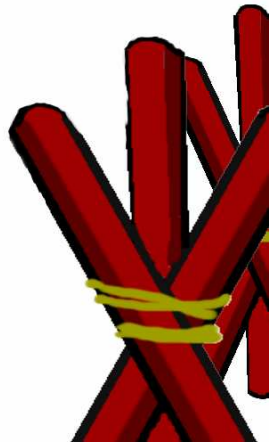
きゃー、痛い！



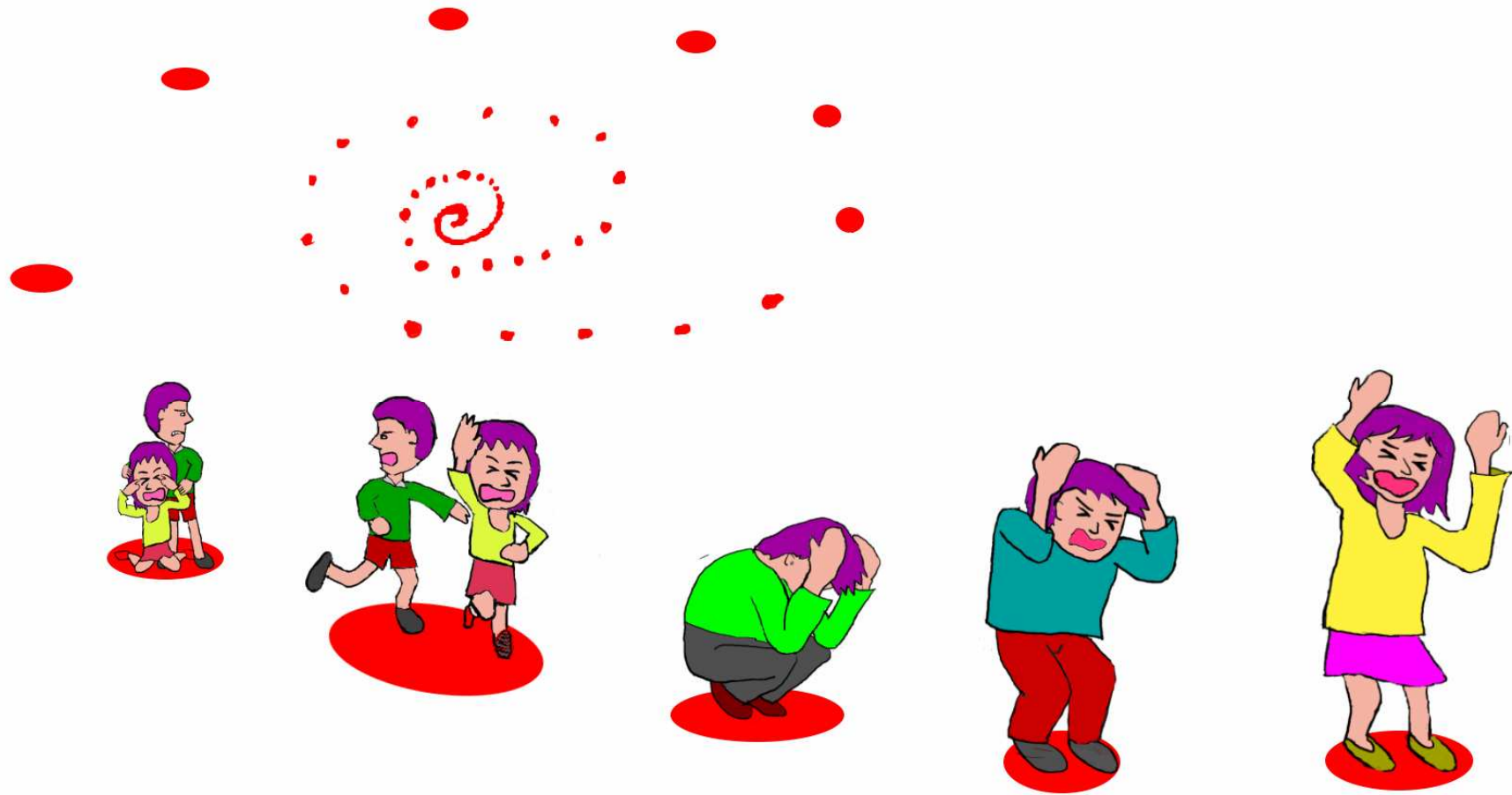
他の誰も苛められないのに、僕たちばかり、苛められる。



やっぱり、僕たちは特別なんだ！

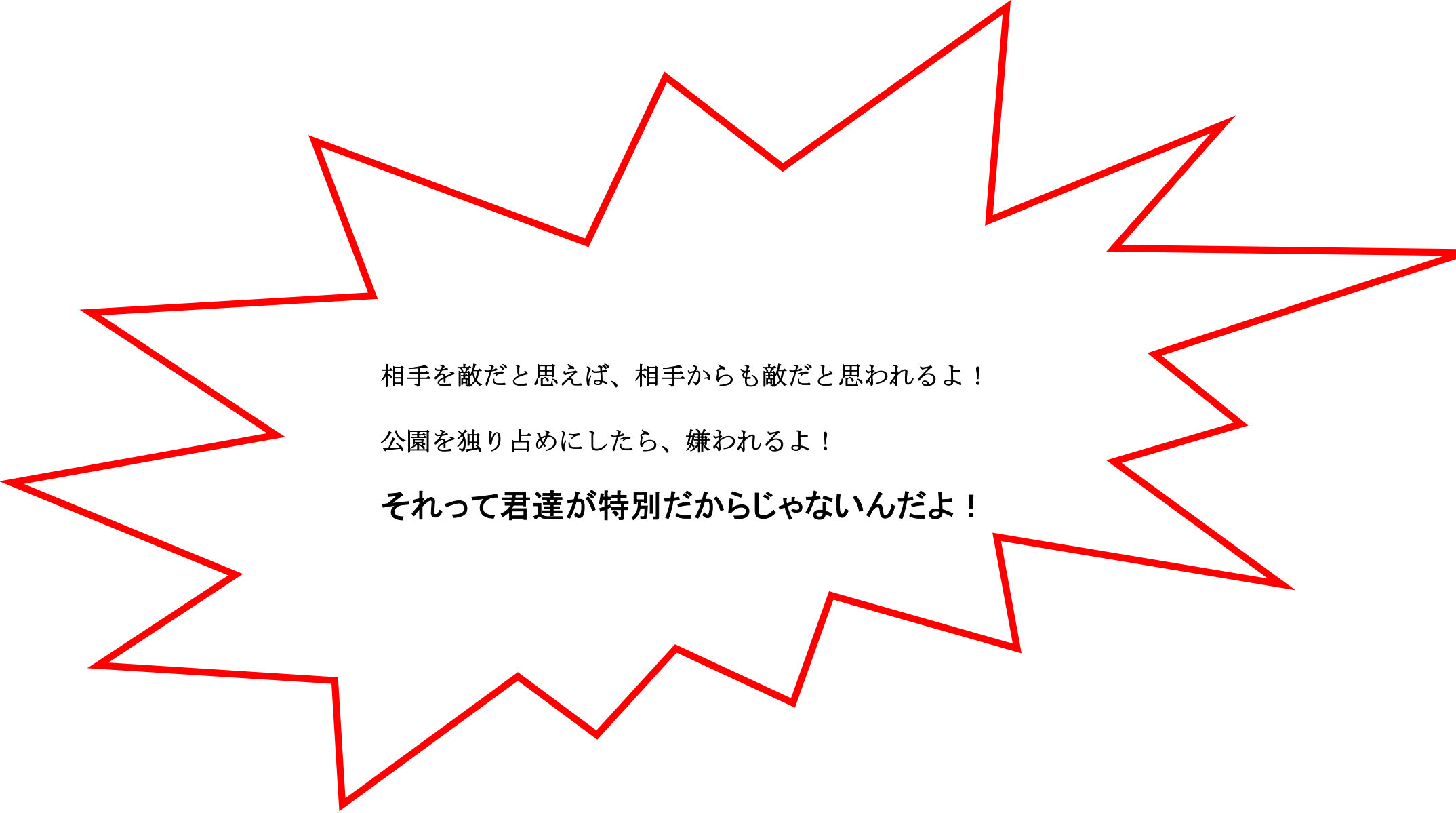


こうして、紫の子供たちはこの星で、ずうっとずうっと苛められ続けました。



このままでは、これからもずっと苛められてしまうでしょう。いつまでも、いつまでも、もしかしたら何千年でも……。

ああ、なんて可哀想なのでしょう！ もし君が、紫の子供たちを可哀想だと思ったら、教えてあげて！



相手を敵だと思えば、相手からも敵だと思われるよ！

公園を独り占めにしたら、嫌われるよ！

**それって君達が特別だからじゃないんだよ！**

## あとがき

固定化した被害者意識なり選民意識から生まれた錯覚は、容易に人と人との信頼関係を損ね、人間関係をゆがませます。そして、様々な悲劇が生じます。

この絵本は、そうした悲劇を地球上から無くすことを目的に執筆したものです。  
もしあなたがこの絵本に共感されたなら、出来るだけ多くの方に読ませてあげていただければと思います。

本絵本は、商業出版を除いて自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。  
また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることが出来ます。

**www.j15.org**

©Jun Togo 2007